

千葉県浦安市

②1 地域交流プラザ エスレ高洲

施設HPアドレス

<http://www.city.urayasu.lg.jp/shisetsu/bunka/kouminkan/1005645.html>

<ポイント>

- ・オープンスペース部分を「交流空間」と位置づけ、幅広い来館・利用と活動の幅の広がり生まれる。

施設概要

- 複合施設（床面積）／7179.43㎡
 - ・高洲公民館（6142.86㎡）
 - ・図書館高洲分館（407.30㎡）
 - ・高洲児童センター（342.48㎡）
 - ・防犯ステーション（148.74㎡）
 - ・支部社会福祉協議会（53.75㎡）
 - ・カフェ（84.3㎡）
- 整備時期／平成 22 年
- 構造／鉄骨造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造り）・地上3階地下1階
- 総工費／25億円
- 主な財源／市単独



エスレ高洲 外観

施設整備の背景

- ・埋立事業により生まれた新興住宅地域
- ・生涯学習振興のため地区公民館の整備が必要
- ・日常生活圏の利便性、向上に配慮した機能の充実が必要

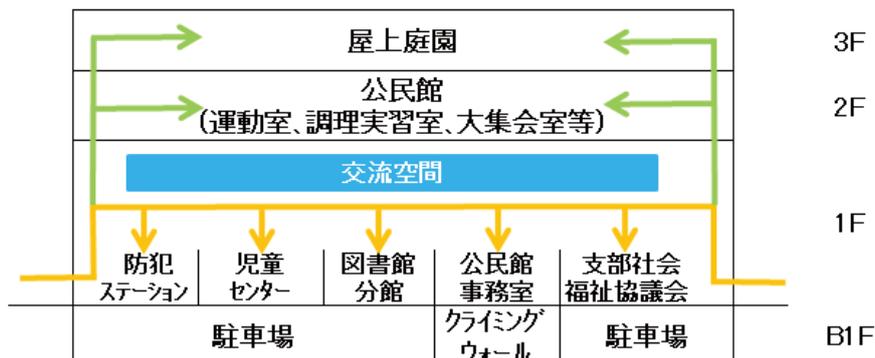
管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
公民館	9:00～21:00	教育委員会	教育委員会	7	—
図書分館	10:00～18:00	教育委員会	教育委員会	延12	—
児童センター	10:00～18:00	市長部局	市長部局	延9	—
防犯ステーション	9:00～18:00	市長部局	市長部局	3	—
支部社会福祉協議会	10:00～17:00	社会福祉協議会	社会福祉協議会	2	—

施設の配置・動線

<ポイント>

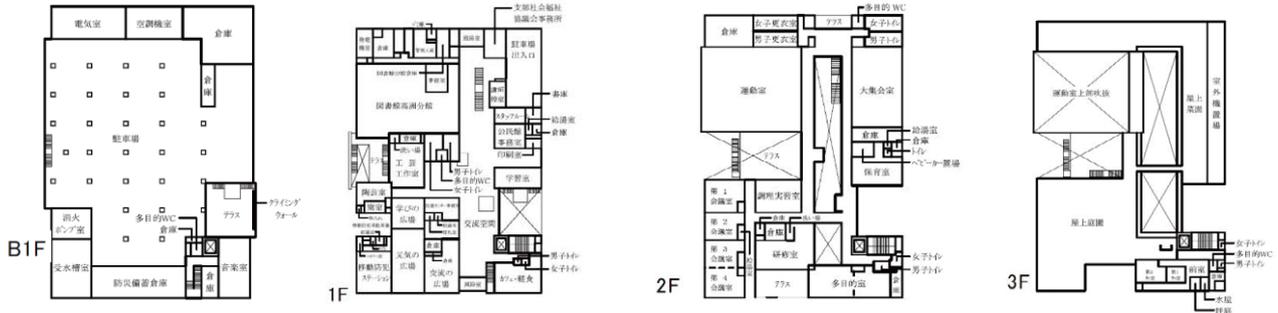
- ・公民館部分を中心に、複合施設部分はすべて1階部分に配置



平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・複合部分はすべて1階に配置し、多様な利用者同士が交流できる場とした。



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・地域の学習・交流拠点として幅広い世代の来館・利用がある。
- ・公民館を中心に利用者の活動の幅の広がり生まれている。
(図書分館⇄公民館⇄児童センター)
- ・各施設の事業の連携が生まれている。

【課題】

- ・人材面 一部施設職員が併任であること。
- ・財政面 特になし
- ・事業面 特になし

主な特徴

○	集約化・複合化による相乗効果の発揮	コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○	住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用（PFI など）
	管理運営の工夫	その他

【相互利用・交流活動】

- ・1階オープンスペース部分を「交流空間」と位置付け、誰もが集える自由空間とすることで子供や親子連れの利用が多く、児童センターとの連続性が生まれている。
- ・公民館、児童センターの各機能を生かした共同事業の実施
- ・公民館空間を使った社協事業の実施

1階オープンスペースの様子



【住民からの意見反映】

- ・実施計画において公民館機能を軸にした複合施設の建設を実施計画に位置付けている。複合部分の施設の方向性は、市の素案に市民意向調査結果を取り入れ決定。
- ・効果（住民の満足度など）
特に満足度調査は実施していないが、日々、交流空間には多くの子供たち、親子づれ、高齢者の方たちが訪れ、賑わいがある。
施設デザインにおいて、住民要望を踏まえ、景観に配慮した低層施設となった。

東京都稲城市

② 稲城市立 i プラザ

施設HPアドレス

<http://www.iplaza.inagi.tokyo.jp/>

<ポイント>

- ・PFIの活用により、事業者独自の発想・ノウハウが事業の企画等に発揮されているほか、地元の団体・企業とも連携し、地域貢献にも資するものとなっている。

施設概要

- 複合施設（床面積） / 4961.93㎡
 - ・生涯学習・コミュニティ施設（314.57㎡）
 - ・図書館（458.42㎡）
 - ・児童・青少年施設（442.88㎡）
 - ・ホール施設（1019.99㎡）
 - ・市役所出張所（101.49㎡）
- 整備時期 / 平成 21 年
- 構造 / SRC 造・地上 2 階地下 2 階
- 総工費 / 約 69 億円（落札金額）
- 主な財源 / 自己財源



i プラザ外観（北東メイン入り口側）

施設整備の背景

- ・本施設は、「コミュニティ及び生涯学習の拠点」「文化芸術の拠点」「青少年健全育成の拠点」の3点を基本的事項とし、生涯学習・コミュニティ施設、ホール、児童・青少年施設、図書館等のそれぞれに関する公共サービスを提供し、また、民間事業者による付帯事業も合わせて行うことにより、若葉台駅前の新たな拠点形成を目指した。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営
i プラザ	8:30~22:00	教育委員会	SPC
市役所出張所	8:30~17:00	市長部局	市長部局

施設の配置・動線

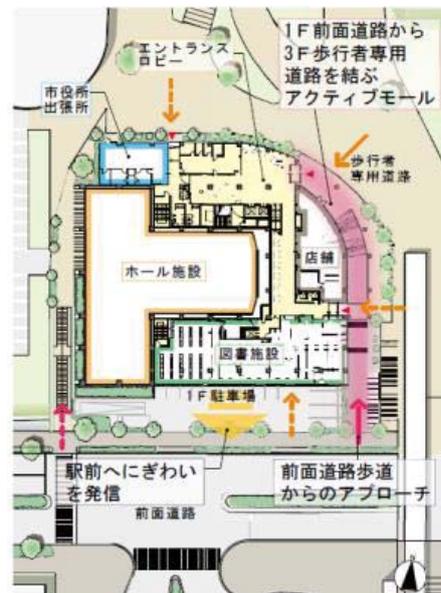
<ポイント>

- ・駅前のロータリーに隣接。
- ・限られた敷地面積での複合施設でありながら、音楽ホールに特化した秀逸のホールを中心に配置。

<立面図>

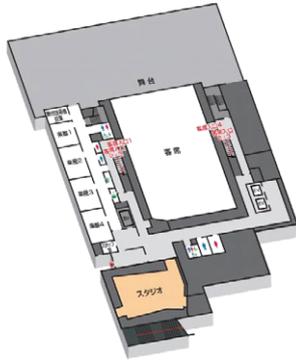


<配置図>

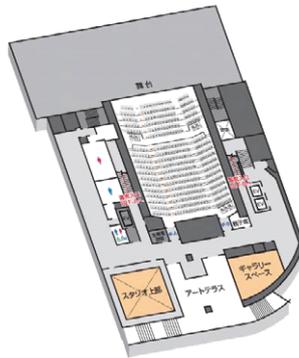


平面計画上の特徴

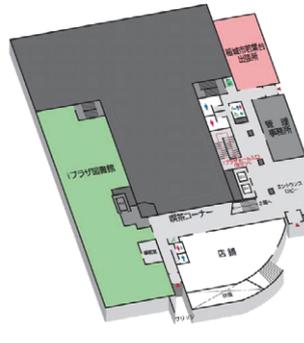
B2F



B1F



1F



2F



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・平日もレコーディング需要のあるホールを備えながら、原則有料の生涯学習エリアではさまざまな活動で賑わい、児童青少年エリアも幼児から青少年を対象に市の直営施設が17時までの利用と比べ、20時まで賑わう。図書館事業も豊富であり、生涯学習講座に関連する蔵書を配架するなど工夫もされている。施設維持費は修繕費等の迅速な対応も含め、メリットが大きい。

【課題】

- ・人材面で、開館7年で改善されてきているが、各エリアの責任者の人事異動のサイクルが早かった。適材適所である限りできるだけ長期間の配置で専門性を求めたい。

主な特徴

<input type="checkbox"/> 集約化・複合化による相乗効果の発揮	<input type="checkbox"/> コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
<input type="checkbox"/> 住民の意見の取り入れ・反映	<input type="checkbox"/> 民間の力の活用（PFI など）
<input type="checkbox"/> 管理運営の工夫	その他

【PFIの活用による民間の力の活用】

- ・他の既存文化センター5館との連携や、事業者独自の発想・ノウハウが発揮された事業と自主事業の企画のほか、地元団体との連携がなされている。
- ・併設事業によって、本施設の利用者だけでなく、地域の人々の利便性向上につながっている。
- ・建設業務・システム開発業務での地元企業との連携が多く、地域貢献に資するものとなった。
- ・民間主催事業では、市民に楽しめるイベント企画など地域の文化の発展に貢献している。
- ・チケット販売システムや、ホール事業でもアーティストとのパイプがあり安定している。
- ・開館日数・時間の拡大はできているが、直営施設ではないため、全て契約内での施設運営となる。

【住民からの意見反映】

- ・常に利用者の意見箱を設置しているが、毎年10月～12月には全利用者に対するアンケートを実施分析している。
- ・住民の提案によるサインの増設などに迅速な対応をし、満足度が高い運営ができています。

地域住民・利用者等の声

- ・スタッフが臨機応変に対応してくれてすばらしい。
- ・ホールの響きがとても良い、スタインウェイのピアノがすばらしい。
- ・駐車場が少ない。
- ・子どもエリアでは、リトミック、プレイルーム開放も年齢で区切られているので安心だし、同じくらいのお子様の様子なども見られて良いと感じる。広くてきれいで、おもちゃも充実している。
- ・図書館では読みたい本がない時もあるが、他の図書館から取りよせただけなのが嬉しい。ロビーで遊ぶ子の声がたまに気になる。

東京都荒川区

②3 ゆいの森あらかわ

施設HPアドレス

<https://www.yuinomori.city.arakawa.tokyo.jp/>

<ポイント>

- ・複合施設内の各施設を一つの部署において運営し、事務スペースの共用化や庶務機能を集約。
- ・極力壁を区切らず、つながりをもって配置し、将来的なニーズの変化にも対応

施設概要

- 中央図書館、吉村昭記念文学館、子どものための施設（床面積）／約 10,900㎡
- ※区分ごとの面積算定は行っていない
- 整備時期／平成 29 年開館
- 構造／RC 造（免震）、地上 5 階、地下 1 階
- 主な財源／起債、社会資本整備総合交付金、子供家庭支援区市町村包括整備補助金



ゆいの森あらかわ 外観パース図

施設整備の背景

- ・課題解決の支援等幅広いサービスに対応できる中央図書館の整備
- ・区出身の作家・吉村昭氏の作品の紹介と顕彰
- ・体験的な遊びや学びの提供を通じて、子供たちの夢や生きる力を育む

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
庶務・子ども施設	9:30 ~ 20:30	ゆいの森課	直営	26	—
図書室	同上	同上	同上	44	—
文学館	同上	同上	同上	6	—

施設の配置・動線

<ポイント>

- ・施設内の三つの機能を回遊してもらえるように動線を設計
- ・荒川自然公園と近接し、フィールドワーク等の実施が可能な立地

<立面図>



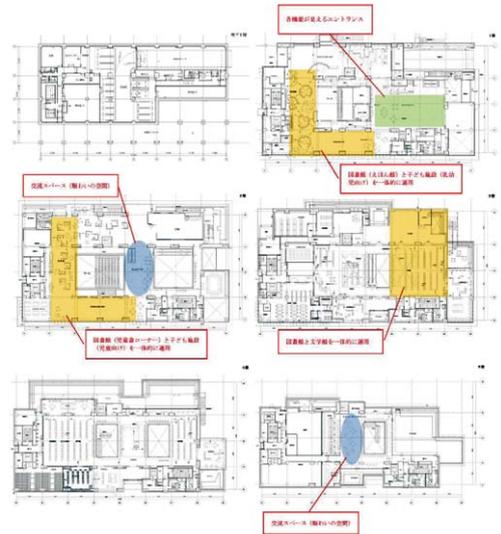
<配置図>



平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・各機能、諸室は、極力壁で区切らず、つながりをもって配置し、将来的なニーズの変化にも対応
- ・施設の顔である1階エントランスから各機能が見えるようにフロアを配置
- ・施設を中心から外側、1階から5階に向かい、賑わいの空間から静かな空間へ遷移



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・**施設維持費、人件費等の経費削減額など** 事務スペースの共用化や庶務機能の集約により、施設の維持管理経費の削減効果あり。
- ・**利用者数・属性の変化** 図書館を目的とした来館者が文学館に立ち寄るなど、単体で運営した場合にはその施設に立ち寄らないであろう利用者の来館を促す効果がある。また、複数の機能が多世代の利用者を呼び込み、世代間の交流の促進にも繋がっていく。
- ・**活動内容の拡がり** など 複数の機能の連携により、これまでにない新たな発想の事業の実施が可能。また、多世代に向けて様々な事業を実施することにより、世代間の交流と相互理解が深まる。

【課題】

- ・**人材面** 全職員が各機能の業務内容を一定程度以上の理解する必要があり、その習熟に一定の時間がかかる。
- ・**財政面** 各機能ごとの経費の算出が難しくなる。
- ・**事業面** 連携事業の実施に当たっての役割分担が不明確になりやすい。

主な特徴

<input type="checkbox"/> 集約化・複合化による相乗効果の発揮	<input type="checkbox"/> コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
<input type="checkbox"/> 住民の意見の取り入れ・反映	<input type="checkbox"/> 民間の力の活用（PFI など）
<input type="checkbox"/> 管理運営の工夫	<input type="checkbox"/> その他

【コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり】

子育て中の親同士や、多世代間の情報交換、交流の拠点となるよう、従来の「静かな図書館」という概念は取り去り、館内に交流スペースや開放的なホールを設けるなど「賑やかな図書館」を目指す。



交流スペース

【えほん館・ゆいの森ホール】

全ての世代に絵本を楽しんでもらえるよう、館内には「えほん館」と、壁一面の絵本に囲まれた「ゆいの森ホール」を設置。ホール前面の壁は可動式となっており、イベント等を実施していないときは、「えほん館」との一体的な利用が可能。



ゆいの森ホール

【住民からの意見反映】

- ・区民や区議会議員、学識経験者をメンバーとした懇談会を開催し、意見を聴取
- ・図書館利用者アンケートや世論調査のほか、障がい者団体、民生委員・児童委員等のヒアリングを実施

【管理運営の工夫】

中央図書館、吉村昭記念文学館、子どものための施設の三つの機能を一つの部署において運営することにより、各機能間の連携を強化し、一体的に業務を進める。

地域住民・利用者等の声

図書館の座席の不足や蔵書の充実・施設のバリアフリー化・地域における子育て支援や活動拠点の充実

東京都小平市

②4 なかまちテラス 小平市立仲町公民館・仲町図書館

施設連絡先

nakamachi@library.kodaira.ed.jp

<ポイント>

- ・複数の機能を持つ部屋を配置し、機能の複合化・相互乗り入れを図る。
- ・住民参加により、施設を生かした事業について協議を行い、各種講座の企画運営や交流会の企画・実施。

施設概要

- 複合施設（床面積）／1453.27㎡
 - ・仲町公民館（367.30㎡）
 - ・仲町図書館（440.53㎡）
 - ・共用部分（645.44㎡）
- 複合化前の総床面積／1820.08㎡
- 整備時期／平成 26 年
- 構造／地下鉄筋コンクリート 造・地上鉄骨造・地下1階地上3階
- 総工費／9.7 億円
- 主な財源／東京都補助金・市債・一般財源



人と情報の出会いの場

施設整備の背景

- ・小平市第3次長期総合計画前期基本計画において、近接する公民館と図書館を統合する方針が決定
- ・基本コンセプトを、「人と情報の出会いの場」とし、機能の複合化、相互乗り入れを図る施設を目指す。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
公民館	9:00～22:00	小平市教育委員会	直営	5	5
図書館	9:00～17:00 (祝日を除く火水は20:00)	同上	同上	11	9

※職員数は、嘱託職員を含む

施設の配置・動線

<ポイント>

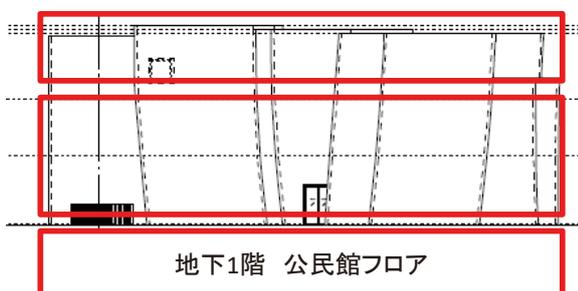
- ・複数の個性ある空間が様々な方向に開いて人を迎え入れる。それらが上階に上がるにつれ、だんだんと一つの空間になる。また、ガラス面を多く取り入れ、光を柔らかく反射するアルミのエキスパンドメタルが建物全体を包んでいる。

<配置図>

地上では各部屋が“はなれ”のように配置されています。



<立面図>



1、2階
公民館
図書館
フロア

平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・3階図書館から、1階カフェへ直接行けるよう階段が設置されている。
- ・2階講座室は、講座の他に読書室・学習室としても利用できる。(図書館閉館後の利用も可)
- ・1階事務室は、総合窓口としての機能も有している。
- ・地下1階には、公民館保育室と図書館おはなし室を兼ねて子ども専用の部屋を備えている。



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・明るい施設であり、内容を工夫した行事等の開催により利用者数は伸びている。特に若者の利用が増えた。
- ・なかまちテラス LiNKs (市民協働体) を中心として「みんなでつくるみんなのなかまちテラス」を合言葉に、地域、学校、利用者などが連携し、なかまちテラスの持つ大きな可能性を見出し活動している。

【課題】

- ・人材面：勤務形態の異なる職員を効率よく連携させていくこと。
- ・財政面：ブックディテクションシステム等、最新機能の導入により、経費が増加したこと。
- ・公民館と図書館、地域や学校と連携した取組、なかまちテラスをPRする取組などにより機能を高める事業を実施し、さらに地域を活性化すること。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○ 住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用 (PFI など)
○ 管理運営の工夫	その他

【相互利用・交流活動】

- ・公民館講座に図書館職員が協力し、お菓子づくり講座に関連絵本の読み聞かせを実施。絵本と出会う機会をつくるとともに、お菓子づくりへの興味、関心が深まり、さらに想像力が広がる。



【市民等からの意見反映 (なかまちテラス LiNKs の活動)】

- ・**目的・内容**
リニューアルオープン前から住民参加により、施設を生かした事業について協議を行い、なかまちテラスまつりをはじめ、LiNKs 講座の企画運営、LiNKs 交流会、イルミネーションの点灯等を企画・実施。また、開館後は、福祉団体が入っているカフェも参加し、古本市、アートフェスティバルを実施した。
- ・**効果**
企画に関わることにより、市民等が達成感や充実感を得る。

地域住民・利用者等の声

- ・明るく、狭いながらも話し合ったり学んだりするスペースがあり、便利に利用している。
- ・事業についても、自分たちの意見が講座等に反映できるので、やり甲斐を感じる。
- ・図書館と公民館の連携で、交流と学びが深まり、その成果を地域に還元する学習活動が展開できる。

東京都足立区

②5 ギャラクシティ

施設HPアドレス

<http://www.galaxcity.jp/>

<ポイント>

- ・子供施設と文化施設が一体となっていることで、子供達が文化に触れることができるとともに、多様な世代が集う賑わいのある施設になっている。
- ・リニューアルを機に指定管理者制度を導入し、民間ノウハウを活かした様々な事業を展開。

施設概要

- 複合施設（床面積）／15,219.86㎡
 - ・足立区こども未来創造館（14,528.86㎡）
 - ・西新井文化ホール（691.00㎡）
- 複合化前の総床面積／14,551.516㎡
- 整備時期／平成 23.24 年
- 構造／SRC 造・地上 4 階、地下 2 階
- 総工費／約 21 億円（リニューアル）
- 主な財源／自主財源



施設整備の背景

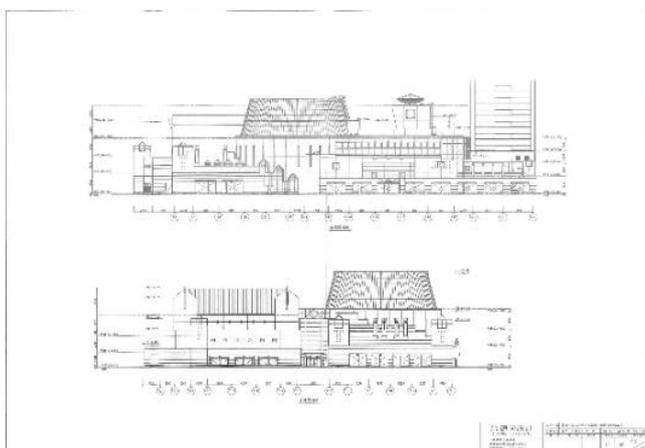
- ・平成 6 年よりこども達の憩いのスペースとして運営してきた。
- ・時代の変化に伴い、展示型から体験型への変更を計画し、区政 80 周年を機にリニューアルを実施。

管理・運営の体制

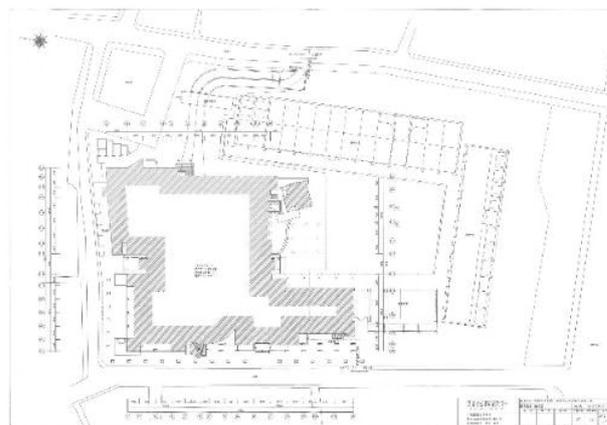
施設	利用時間	所管	管理・運営
ギャラクシティ	9:00～21:30	教育委員会	指定管理者

施設の配置・動線

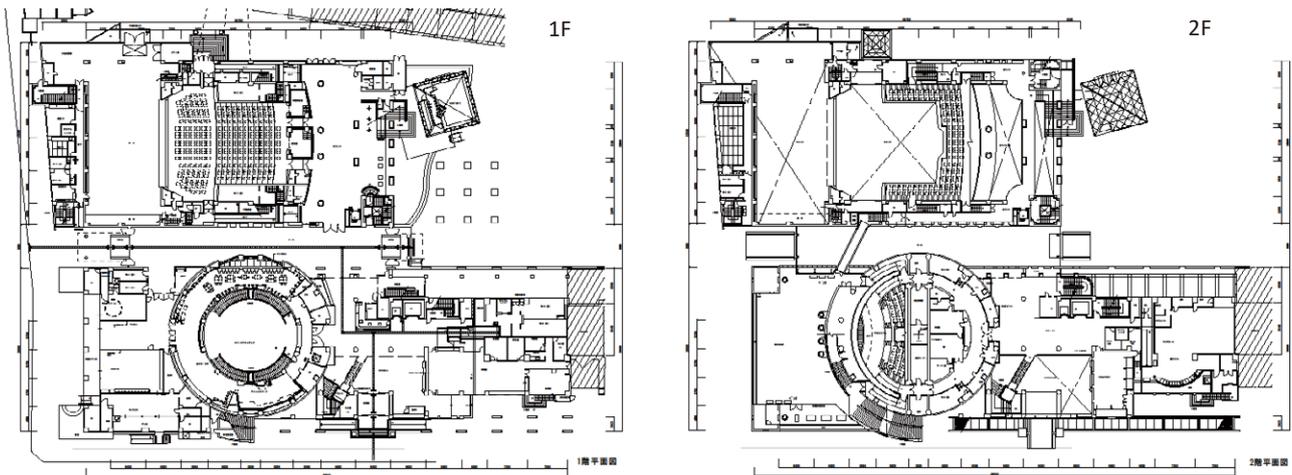
<立面図>



<配置図>



平面計画上の特徴



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・文化ホールと一体となっていることで、子供達が古典芸能や音楽、ダンス等の文化に触れることができる。
- ・子供施設、文化ホールが一体となっていることで、多様な世代が集う賑わいのある施設となっている。
- ・リニューアルを機に指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用し、様々な事業展開を図ることができた。

【課題】

- ・当初予定していた利用者数約40万人の約4倍にあたる160万人が利用していることから、特に土日祝日は、人気遊具は最大2時間待ち、ワークショップはキャンセル待ちになっている。来館者に楽しんでいただくために、待ち時間の工夫が必要である。
- ・今後も多くの利用者楽しんでいただくためには、定期的な施設更新が必要である。その更新には多額の経費がかかるため、ネーミングライツなどの財政負担を軽減する対策の検討が課題である。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
住民の意見の取り入れ・反映	○ 民間の力の活用（PFI など）
管理運営の工夫	その他

【相互利用・交流活動】

- ・子供施設、文化ホールの複合施設として、他にはない、独自の交流事業、イベントなどを行い活動の幅を広げる。

《西新井文化ホール》

- ・古典芸能や音楽などワークショップを実施

《こども未来創造館》

- ・ロビーコンサートの実施

【コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり】

- ・区民団体等の活動の拠点が、ギャラクシティの貸室となっている。
- ・ちびっこガーデンは、乳幼児の遊び及び学びの場ではあるが、その保護者でサークルを作るなど仲間づくりの場にもなっている。

【民間力の活用】

《指定管理者制度の導入》

- ・リニューアルにあたり民間のノウハウを活用し、様々なワークショップや、イベントを計画、実施した。



スペースあすれちっく

東京都足立区

②6 学びピア 2 1

施設HPアドレス

<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>

<ポイント>

- ・小学校の統廃合による用地を活用し、生涯学習推進のネットワーク化の中心的役割としての拠点を整備。

施設概要

- 複合施設（床面積）／17,681.15㎡
 - ・生涯学習センター（4,310㎡）
 - ・中央図書館（6,537㎡）
 - ・放送大学東京足立学習センター（1,353㎡）
- 整備時期／平成12年
- 構造／SRC造・地上21階・地下2階
- 総工費／137億円
- 主な財源／起債・基金・一般会計



学びピア 2 1 外観

施設整備の背景

- ・小学校の統廃合による用地の活用
- ・生涯学習の推進のネットワーク化の中心的役割と新拠点
- ・千住地区の象徴としての新しいランドマーク

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営
生涯学習センター	9:00 ~ 21:30	区長部局	指定管理者
中央図書館	9:00 ~ 20:00	区長部局	区長部局
放送大学	9:30 ~ 18:00	放送大学	放送大学

施設の配置・動線

<立面図>

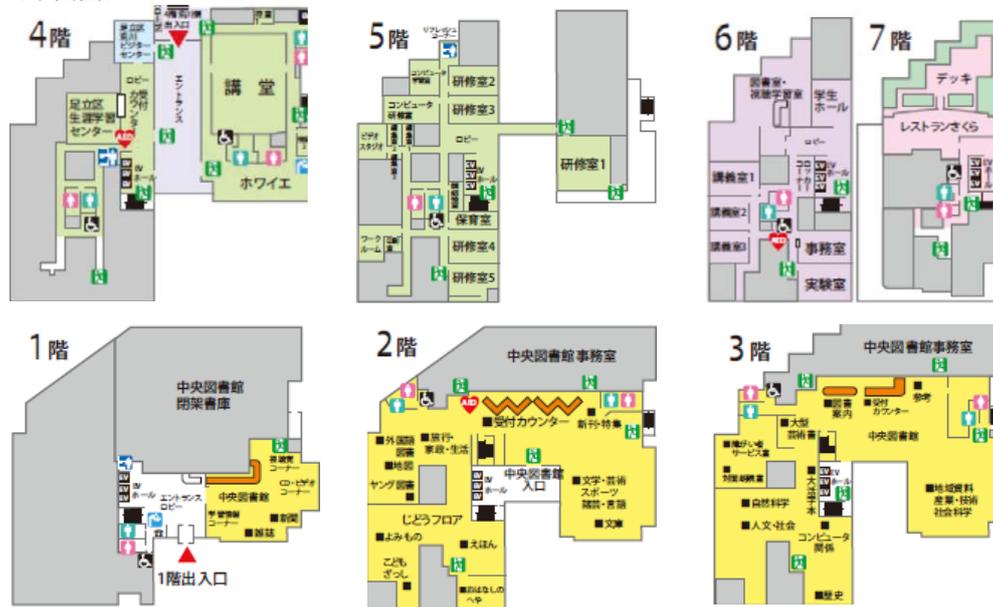
F7	レストラン
F6	放送大学 東京足立学習センター
F5	生涯学習センター
F4	生涯学習センター 出入口
F3	中央図書館
F2	中央図書館
F1	中央図書館
B1	駐車場 出入口

平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・隣接する荒川土手へ直結する出入り口があり、通り抜ける土手利用者に館内の利用を促進することができる

<平面図>



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

乳幼児～子供～青年～高齢者まで、あらゆる世代に向けた生涯学習を館内にて提供できる。
足立区の生涯学習の拠点として機能させる。

【課題】

施設が大きいため、一朝一夕に修繕を行うことが難しく、かつ費用もかかる。
開館15年を過ぎ、そろそろ施設の老朽化が始まっており、中長期的な修繕計画が必要。

主な特徴

集約化・複合化による相乗効果の発揮	○	コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
住民の意見の取り入れ・反映		民間の力の活用（PFI など）
管理運営の工夫		その他

【コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり】

- ・「学びピアの縁側」と称し、中央図書館、荒川ビジターセンター、放送大学、生涯学習センターの4者で合同のイベントを年4回実施している。それぞれの利用者に相乗的に各所の役割や事業等を周知できる。例えば荒川ビジターセンターのイベントに来られたお客様が、図書館や放送大学の学生サークルの活動、取り組みにも参加されるなど、単独開催でのイベントでは成しえない効果が期待できる。



学びピアの縁側

【管理運営の工夫】

- ・生涯学習センターの運営は指定管理者を指定し、民間事業者に管理運営を任せている。館全体の設備管理も含まれており、一体的に管理運営している。
- ・防犯、防災体制についても、館全体で実施。施設全体（住宅棟含む）の避難訓練は毎年実施している。

東京都多摩市

②7 多摩市立複合文化施設

施設HPアドレス

<http://www.parthenon.or.jp/>

<ポイント>

- ・管理を一元化し、維持管理にかかる経費を効率化。
- ・施設間の事業の連携等により特色ある事業展開につなげている。

施設概要

- 複合施設（床面積） / 15,284㎡
 - ・公会堂（12,026㎡）
 - ・郷土博物館（3,258㎡）
- 整備時期 / 昭和 62 年
- 構造 / 鉄骨鉄筋コンクリート造・地上 5 階、地下 1 階
- 総工費 / 80.7 億円
- 主な財源 / 国庫補助、都補助、地方債、一般財源



ペDESTリアンデッキからのパルテノン多摩正面

施設整備の背景

- ・多摩ニュータウン住民への調査により文化施設、博物館の要望が高い施設だった。
- ・文化活動などを通して市民のコミュニティ醸成が促進されるなど、多摩市に相応しい市民文化の創造に寄不するために設置された施設。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数
パルテノン多摩	9:00 ~ 22:00	文化市民協働課	多摩市文化振興財団	17 委託 53

施設の配置・動線

<ポイント>

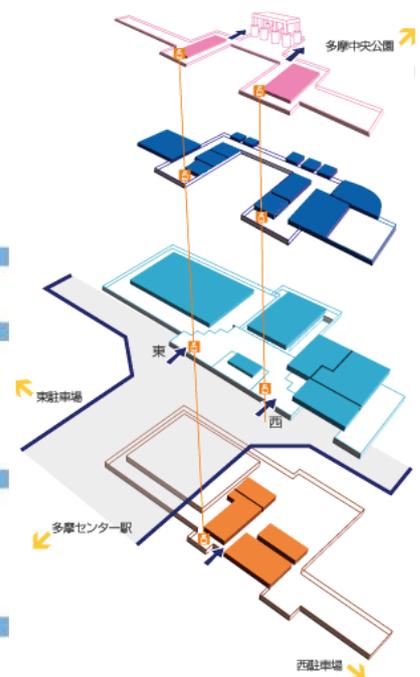
- ・当時は 2 つの私鉄駅から南側に直接で伸びるペデ道路の正面に設置。商業施設と住宅区域の間に街の象徴となる文化施設を置いた。
- ・公共交通路上にもなっており、館内を通学、通勤の住民も往来する。

<立面図>



<配置図>

5階	シティサロン 地中海料理 トレーニング
4階	マジックサウンドルーム キッズファクトリー 特別会議室・会議室 和室 学習室・アトリエ カフェ トレーニング
2階	チケットパルテノン 総合案内 大ホール/小ホール 歴史ミュージアム ギャラリー・特別展示室 授乳室
1階	事務室 リハール室/練習室



平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・水色が博物館機能面積になる。1階収蔵庫、2階博物館・展示、4階展示・ワークショップルーム
- ・5階レストラン、4階カフェは民間事業者が入居。
- ・公園内施設のため、劇場・博物館の利用目的外の市民モトイレ、授乳施設などを利用している。



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・博物館機能と公共ホールの管理を一元で行っているため、維持管理の効率化として、設備、清掃、警備、受付業務、人件費、委託料の圧縮が可能になっている。
- ・博物館と劇場事業の連携や公園の一部を利用した野外公演をおこなったり、特色ある事業展開につなげている。
- ・当施設は、改修整備を将来に予定しているが、現況は開館時点から基本は変わっていない。

【課題】

- ・公共ホールと博物館の専門人材の育成、市民参加型事業の企画力などの課題を抱えている。
- ・市の行財政の厳しさが増す中で、文化行政に割ける指定管理料のバランスある確保が今後更に難しくなると予測している。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用（PFI など）
○ 管理運営の工夫	その他

【相互利用・交流活動】

- ・施設全館での子供イベント実施
- ・館内通路での街の定点観測写真など展示等
- ・効果・課題

来館者は、博物館、ホール事業の区別無く、街の施設としてニーズのある事業を行って利用する。今後は鑑賞する文化から市民参加の文化活動へ、事業を企画、提案する力が運営者に求められている。



大ホール舞台でのワークショップ

【市民参画による施設運営等】

- ・無作為抽出アンケート、参加型ワークショップ、シンポジウムなどを開催して、今後の改修に向けた基本計画へ市民意見などの反映を行っている。
- ・施設改修は未だ行っていない。

【民間活力の導入】

- ・今後、施設利用におけるゾーニングを検討する中で、施設理念に合う民間提案を求める予定。施設利用料などの収入を文化施策に充当することも今後検討する。

地域住民・利用者等の声

- ・無作為抽出による施設アンケートでは、文化・芸術の大切さについては理解されているが、文化鑑賞や活動参加については、魅力が少ない、仕事や学業で時間が無いという意見が目立つ。
- ・公共ホール、博物館施設の利用頻度も、アンケートでは数年に1回以下が半数を超えている。
- ・公共ホールに求める新しい機能としては、ひとりや仲間とくつろげる場所であったり、散歩のついでに何気なく訪れる場所を期待する声が多かった。

東京都調布市

⑳ 調布市立中央図書館

施設HPアドレス

<https://www.chofu-culture-community.org/forms/top/top.aspx>

<ポイント>

- ・併設の施設を活用することで、大人数でも対応でき、事業の幅が広がる。
- ・併設の施設からの参加者等の利用機会が増大し、サービスの活性化につながっている。

施設概要

- 複合施設（床面積）／31,446㎡
 - ・調布市立中央図書館（4,336㎡）
- 複合化前の総床面積／626㎡
- 整備時期／平成7年
- 構造／地上12階
- 総工費／2億円（図書館4・5・6階）



文化会館たづくり外観

施設整備の背景

調布市の図書館システムの中核としての役割を担い、第一線の図書館としてサービスの拡充を図るため。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
図書室	9:00～20:30	教育委員会	教育委員会	42	15
文化会館たづくり	9:00～21:30	調布市	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	35	

施設の配置・動線

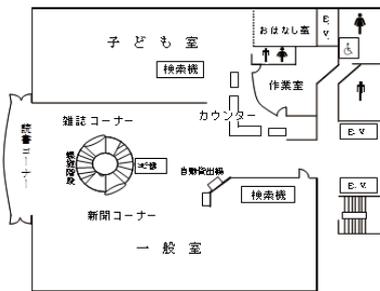
<ポイント>

- ・入り口は共通で南北の2方向
- ・フロアごとに関連性を持たせた配置と内階段による動線を確保

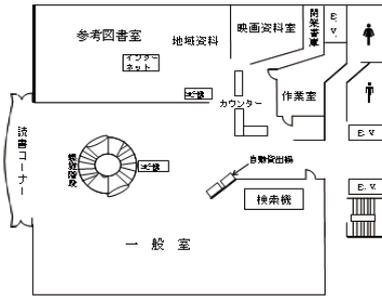
<文化会館たづくりフロア>

12階	大会議場, レストラン
11階	学習室・創作室
10階	学習室
9階	研修室
8階	学習室
7階	管理事務室
6階	図書館
5階	図書館
4階	図書館
3階	会議室
2階	ホール
1階	ホール, 喫茶室
地下1階	駐車場・駐輪場
地下2階	音楽練習場・駐車場

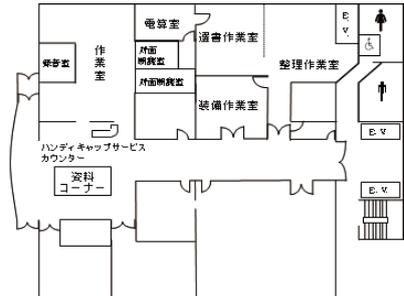
平面計画上の特徴



4階一般室
子ども室・おはなし室



5階一般室
参考図書室・映画資料室



6階ハンディキャップサービス
視聴覚資料室

複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・施設維持管理を一括することで、管理運営責任が明確で高い信頼をおける。
- ・他施設利用者の立ち寄りによる図書館利用機会の増大。
- ・併設された会議室、研修室を活用することで、事業の幅が広がり、業務が円滑に進む効果がある。

【課題】

- ・各施設の使用用途・利用区分の明瞭化（利用者が図書館と学習室を混同してしまう等）
- ・定期的に各施設の職員同士の危機管理や催し物開催等の情報共有の場を設け必要がある。

主な特徴

○	集約化・複合化による相乗効果の発揮	コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
	住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用（PFI など）
○	管理運営の工夫	その他

【相互利用・交流活動】

- ・図書館では施設内に併設されている会議室等を使用して読書会等を定期的実施している。同施設内に大人数を収容可能なスペースがあることで事業の幅が広がる他、施設内で開催される催し物に関する資料の提供・問い合わせが寄せられ、図書館サービスの活性化に繋がっている。
- ・利用者は学習室や音楽練習室を使用時に生じた疑問等を施設内に図書館があることで、すぐに資料を求めることができ、市民の学習機会向上の効果がある。

【防災対策】

年2回（9月・2月）に施設全体の消防訓練が実施され、避難経路や防災対策について職員が理解を深める機会が設けられている。

地域住民・利用者等の声

- ・図書館を自分の書斎のように使わせてもらっている。
- ・地域の図書館は住民にとってインフォメーションセンターとしての役割を持っている。

東京都武蔵野市

②9武蔵野市立 ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス

施設HPアドレス

<http://www.musashino.or.jp/place.html>

<ポイント>

- ・各機能が融合し、図書や団体活動を通じて、人と人が出会い、それぞれが持っている知識や経験を共有・交換する、質の高い「場」を提供。
- ・各機能と市関係各部署による定期連絡会の開催や、企業や大学、地域活動団体と意思疎通を行うなど、連携を図っている。



施設整備の背景

利用者のアクションの連鎖が起ることによって、図書館機能・生涯学習支援機能・市民活動支援機能・青少年活動支援の4機能が複合的に活用され3つのミッションを軸に支援を行う

○情報アクセス支援 ○課題学習支援 ○地域社会活性化支援

施設概要

- 複合施設(床面積) / 9,809.76㎡(機能別面積等の計測なし)
- 整備時期 / 平成23年
- 構造 / SRC造、RC造・地上4階、地下3階
- 総工費 / 44.7億円
- 主な財源 / 一般財源

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数
図書館機能	9:30 ~ 22:00	教育委員会 生涯学習スポーツ課	公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団	44
生涯学習支援				12
市民活動支援				5
青少年活動支援				5

施設の配置・動線

「ルーム」とその連続性

内部空間は、本を捜したり情報を集めて編集したり、勉強をしたりという知的活動にとって心地よい場となるよう、ルームというひとまとまりで人のスケールに馴染む場が連なる形状となっている。それぞれの空間は、壁と天井が曲面でつながったシェル(貝殻)状のかたちになっており、身体的な居心地のよさをもたらすようにデザインしている。

平面計画上の特徴

ブラウジング性

さまざまな異なる活動に対応するように、各階は大きさの異なるルームが、次々とつながることによってできている。ひとつのルームに入ると、次のルームへ導かれ、回遊（空間ブラウジング）がごく自然に行われることを期待している。

それぞれのルームでは別々の活動が行われていて、参加しても素通りしてもよく、街路や広場をめぐり歩くかのような体験となる。

何気なくひとが集まってくる場所、そこにいることが心地よく、くつろいだ気分でいろいろなことのできる場所、思わぬ出会いや発見があり、活動が活動と呼ぶような「場」となることをめざしている。



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・ 4 機能の集約により、各機能が融合し図書や団体活動を通じて、人と人が出会い、それぞれが持っている知識や経験を共有・交換する。
- ・ 各機能融合による知的な交流などにより、年間 175 万人 (平成 27 年度) の来場者があり、地域社会の活性化を進めた。
- ・ 人々の交流が生み出す質の高い「場」を提供し、生活文化・芸術・市民活動といった横断的な活動や交流の広がった。

【課題】

- ・ 想定以上の来館者による、快適に過ごす館内環境・閲覧などの学習環境・自転車等のアクセス環境。
- ・ 指定管理や移管事業の多数の事業実施とその振り返り。
- ・ 更なる学びの連鎖を生む仕掛けづくり。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮		コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○ 住民の意見の取り入れ・反映	○	民間の力の活用 (PFI など)
○ 管理運営の工夫		その他

【相乗効果】

- ・ フロア・ルームを超えたゆるやかなつながり

【住民の意見】

- ・ 境南ふれあい広場の活用による地域のにぎわいが増えた

【民間の力の活動】

- ・ カフェの設置による、未利用者の誘導

【管理運営の工夫】

- ・ 各機能と市関係各部署が定期連絡会を開催するなど、意思疎通・連携を行っている
- ・ 武蔵野プレイスが企業や大学、地域活動団体と連携を図っている



親子食文化講座



クリスマスキャンプ

地域住民・利用者等の声

- ・ 図書館という敷居が低く、気軽に足を運べる
- ・ 子ども連れでも、気兼ねなく行けるが、駐輪場が少ない

東京都千代田区

③〇 千代田図書館

施設HPアドレス

<http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/>

<ポイント>

- ・役所本庁舎の建替えに合わせ、老朽化した図書館を複合化して整備。
- ・住民からの意見を踏まえ、役所本庁舎が閉まっている間でも利用できる専用エレベーターを設置。

施設概要

- 複合施設（床面積）／60,249.75㎡
 - ・九段第三合同庁舎（35,748.21㎡）
 - ・千代田区役所本庁舎（19,127.54㎡）
 - ・千代田図書館（3,710.71㎡）
 - ・男女平等参画センター（330.62㎡）
 - ・障害者福祉施設（1,332.67㎡）
- 複合化前の総床面積／1,723㎡
- 整備時期／平成19年
- 構造／S造（一部SRC造・RC造）・地上23階・地下3階
- 総工費／約79.6億円（PFI建物整備費75.0億、区単独工事費、工事監理委託料4.6億）
- 主な財源／PFI事業



千代田図書館（9・10階）

施設整備の背景

- ・千代田区役所本庁舎の、建替えに合わせ、老朽化した千代田図書館を整備。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
千代田図書室	10:00～22:00 (夏期は9:00～)	文化振興課	指定管理者	約60	9 一部委託

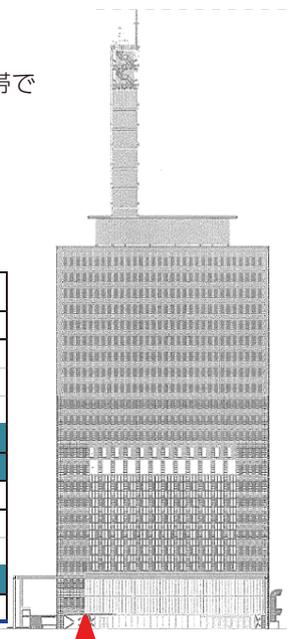
施設の配置・動線

<ポイント>

- ・千代田図書館は、23階建施設の9階、10階にあるため、行政施設が閉まっている時間帯でも利用できるよう専用エレベーターを設置。



階	用途
11階～23階	九段第三合同庁舎
10階	MIW(千代田区男女共同参画センター)
	食堂・喫茶 売店 千代田図書館(子ども室・事務室)
9階	千代田区役所
2階～8階	千代田区役所
1階	エントランス 区民ホール ブックポスト(夜間出入口)
	地下1～3階

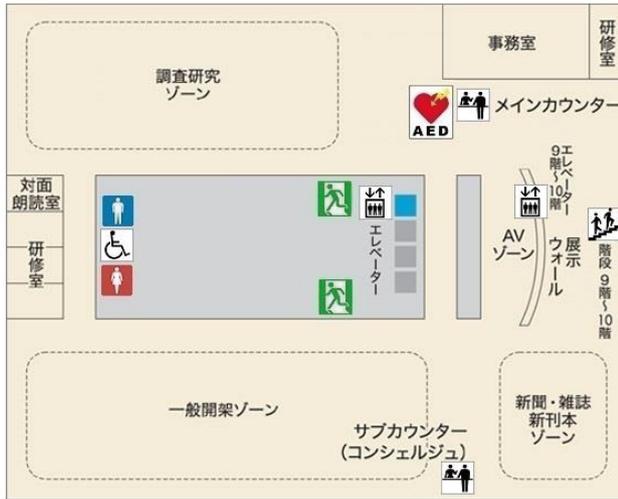


平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・9階フロア内は柱が無いので見通しがよく、バリアフリー空間になっている。

9階



10階



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・個別に建てるより、敷地の有効活用ができ、床面積が広く確保できるため、平面プランの自由度が増す。
- ・施設の維持管理の一元化により経費削減が図れる。
- ・行政職員の利用により、図書館利用者が増加する。

【課題】

- ・開館時間・休館日の変更やレイアウトの変更等を行う場合、事前に区の施設経営課を通してPFI事業者との協議が必要となり、経費負担額に影響がでることからフレキシブルにできない。
- ・共用部分の仕様や利用方法について、調整が複雑になる。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○ 住民の意見の取り入れ・反映	○ 民間の力の活用 (PFI など)
○ 管理運営の工夫	○ その他

【相互利用・交流活動】

- ・千代田区役所1階区民ホールや会議室を利用したイベントの開催。

【住民からの意見反映】

- ・直通エレベーターの設置。

【民間の力の活用】

- ・民間資金や技術的能力を活用したPFI手法 (BTO方式) の活用。



詩を聴く、詩を唄う、詩を感じる (区民ホール)

地域住民・利用者等の声

- ・設備が新しくなり快適。高層階のため、地震時などは不安。